

1. 科目名 (単位数)	社会言語学 (2 単位)	3. 科目番号	EJJP2344 EIJP2144						
2. 授業担当教員	山口 雅代								
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表等	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	社会言語学とは、社会の中で言語がどのように使用されているかに関し理解を深める学問である。具体的には社会の中の性差、地域差、世代差などによる言語の運用について日本語を対象にしながら学んでいく。すなわち本講義は、日本語教育に必要な日本語の運用規則を理解するとともに、言語教育に携わる上での言語観を養うための基礎的科目といえる。日本語母語話者が無意識に行っている言語活動を「社会」という観点から見つめ直すことで、日本語の多様性および日本語の運用規則を理解する。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解する。 2. 日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解する。 3. 日本社会において日本語の会話構造を理解する。 4. 日本語教育における社会言語学の意義について理解する。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回授業の始めに与えられた課題の発表で、内容導入を行う。 2. 毎回授業の終わりにワークシートを利用し、学習内容を確認する。 3. グループで発表する社会言語学に関するテーマを10回目の授業において決め、方向性の確認後、発表を行う。その後、発表会での議論・コメントを踏まえ、自分の研究成果を最終レポートにまとめる。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】使用せず、適宜プリントを配布する。</p> <p>【参考書】荒川洋平『日本語教育のスタートライン』スリーエーネットワーク、2019。 石黒圭著『日本語は『空気』が決める—社会言語学入門』光文社新書、2013。 町田健・榎山洋介『よくわかる言語学入門 解説と演習』バベルプレス、1995。 高見澤他『新・はじめての日本語教育1』アスク出版 2016 など。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解できたか。 2. 日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解できたか。 3. 日本社会において位相による日本語の運用規則を理解できたか。 4. 日本語教育における社会言語学の意義について理解できたか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業ごとの提出物</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			授業への参加態度	30%	授業ごとの提出物	30%	期末レポート	40%
授業への参加態度	30%								
授業ごとの提出物	30%								
期末レポート	40%								
12. 受講生へのメッセージ	社会言語学とは、どのようなことを研究する学問なのか、知識を深め、自国の社会でどのような現象があるのか、分析できる力をつけよう。								
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション (授業概要の説明、自己紹介) 1 言語変種の集合体としての言語 ①地域方言・社会方言・個人語	事前学習	社会言語学とはどのような学問なのか考える。						
		事後学習	ワークシートに記入する。						
第2回	1 言語変種の集合体としての言語 ②場面媒体による言葉の違い	事前学習	場面によってことばをどう変えて使っているか理解する。						
		事後学習	ワークシートに記入する。						
第3回	2 社会言語学とは	事前学習	社会言語学は何を対象として研究するのか考える。						
		事後学習	ワークシートに記入する。						
第4回	3 ことばと属性：言葉の男女差・年齢差・階層差	事前学習	ことばは男女・年齢・社会での属性や地によってどのような違いが生じるのか理解する。						
		事後学習	ワークシートに記入する。						
第5回	4 言語変種の共存・使い分け	事前学習	言語の使い分け現象、ダイグロシアについて理解する。						
		事後学習	ワークシートに記入する。						
第6回	5 言語接触による言語変化	事前学習	言語が接触することでどのような現象が生じるのか理解する。						
		事後学習	ワークシートに記入する。						

第7回	6 ビジンとクレオール	事前学習	ビジンとは何か、クレオールとビジンはどう違うのかを理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第8回	7 方言学	事前学習	日本の方言の分布について理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第9回	8 方言調査の方法	事前学習	方言調査はどのような方法で行うのか理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第10回	グループで発表テーマを決める。	事前学習	これまでの社会言語学についてワークシートを見直す。
		事後学習	テーマについて考える。
第11回	発表テーマについてグループで話し合う。	事前学習	テーマについて分析する。
		事後学習	テーマについて原稿を作成する。
第12回	発表練習を行う。	事前学習	原稿を読み、確認する。
		事後学習	発表に向け、リハーサルを行う。
第13回	発表、質疑応答、フィードバック	事前学習	原稿の再確認を行う。
		事後学習	フィードバックを参考に、改善点を提案する。
第14回	最終レポート提出準備	事前学習	発表やフィードバック、改善点を基にレポートを作成する。
		事後学習	提出するレポートを読む。
第15回	レポートについての評価・フィードバックを行う。	事前学習	提出したレポートについて考える。
		事後学習	レポートの評価について考える。